

## 事例3 19世紀のロンドンに関する絵画資料を活用して、当時の社会の変化を考察する授業

### 1 ねらい

新学習指導要領において、「世界史A」では科目の目標に「諸資料に基づき」の語句が加えられた。これを受けて、内容の取り扱いには、内容の全体にわたる配慮事項として、「年表、地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れたりするなどして、具体的に学ばせるように工夫すること」が示された。また、「その他の資料」の例として、平成22年の『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』には、絵画があげられている。

これを踏まえて本事例では、19世紀後半のロンドンに関する2枚の絵画を資料として取り上げた。一つはギュスターヴ・ドレのロンドンの労働者住宅を描いたもの、もう一つは「パンチ」誌に1858年に掲載されたテムズ川の汚染の様子をあらわした風刺画であり、いずれも当時の労働者の劣悪な生活環境に関するものである。これらから読み取れる事象をもとに、産業革命の進展によって発生した社会の変化を考察し、考察したことを文章で表現するという学習活動を行った。一連の学習活動を通して、資料の内容をよみといたり、資料をよみといて得られた情報や発表されたことを基に考察し、考察したことを表現したりすることができることを目指した。また、絵画を使用することで、生徒が事象に対する関心や、学習活動に対する意欲を高めたりできるようにすることを目指した。

### 2 授業実践

#### (1)単元の指導目標

産業革命の進展により、19世紀のロンドンでは、労働者の生活環境が悪化したことを、絵画資料をよみとくことを通して考察させる。

#### (2)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
・産業革命の進展により、19世紀のロンドンで起きた労働や社会生活の在り方の変化に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	・産業革命の進展により、19世紀のロンドンでは、労働や社会生活の在り方はどのように変化したのかを、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・産業革命の進展による、19世紀のロンドンにおける労働や社会生活の在り方の変化に関する資料をよみといて、有用な情報を得たり、文章にまとめたりしている。	・産業革命の進展による、19世紀のロンドンにおける労働や社会生活の在り方の変化に関する基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

#### (3)指導計画（3時間）

時間	学 習 活 動	評 価 計 画
1	・産業革命の結果、動力革命や交通革命が発生したことを理解する。 ・動力革命や交通革命により、都市への人口集中や工場労働者の増加が起きたことを理解する。	【知識・理解】 ・産業革命の結果、動力革命や交通革命が発生し、都市への人口集中や工場労働者の増加が起きたことを理解している。

2	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで話し合いながら資料をよみとき、よみといて得られた情報をワークシートに記入する。</li> <li>よみときから得られた情報や話し合ったことを基に、19世紀のロンドンにおける労働者の生活条件が悪くなった理由について、文章でまとめる。</li> </ul>	<p><b>【資料活用の技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料1からは、労働者の生活環境が劣悪であったことを、資料2からは河川（テムズ川）の汚染が人々の健康を害していたことを読み取っている。</li> </ul> <p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料のよみときを通して、労働者の生活状況に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料をよみといた結果について、グループの代表が発表する。</li> <li>学習した内容を踏まえて、19世紀のロンドンの労働や社会生活の変化について、各自の考えを文章で表現する。</li> </ul>	<p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業革命の進展による労働や社会生活の変化について、プラス面とマイナス面とを踏まえて表現できている。</li> </ul>

#### (4) 授業の概要

##### ア 1時間目の授業

1時間目は、産業革命の結果として起きた動力革命や交通革命によって、都市への人口集中や工場労働者の増加が起きたことを理解させることを目標とした。これは、2時間目以降の活動を進める際に必要となる事柄である。授業は2年1組（34名）で行った。

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンチェスターとリヴァプール間の鉄道の開通式（1830年）の絵画を見て、描かれているものをあげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンチェスターとリヴァプールの位置を地図で確認させる。</li> </ul>	
展開 45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道の開通によって、人々の生活はどう変化したか考え、発表する。</li> <li>産業革命の結果、動力革命や交通革命が発生したことを理解する。</li> <li>動力革命や交通革命により、都市への人口集中や工場労働者の増加が起きたことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通勤圏の拡大や大量輸送の実現など、具体的に考えさせる。</li> </ul>	<p><b>【知識・理解】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業革命の結果、動力革命や交通革命が発生し、都市への人口集中や工場労働者の増加が起きたことを理解している。</li> </ul> <p>〔ノート〕</p>
まとめ 2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の学習内容の予告を聞く。</li> </ul>		

導入では、教科書に掲載されている、マンチェスター、リヴァプール間の鉄道の開通式の様子を描いた絵画を見て、何が描かれているのか自由にあげさせた。客車や蒸気機関車、線路が描か

れていることや、着飾った人々が描かれていること、独特の帽子と赤い上着を着用した兵士がいることなど様々な発言が出た。これらの発言を踏まえて、絵画が鉄道開通式の様子を描いたものであることを説明し、さらにマンチェスターとリヴァプールの位置を教科書の地図で確認させ、マンチェスターが綿工業都市として発展したという前時の学習内容を確認した。

展開の最初では、鉄道の開通によって当時のイギリスの人々の生活はどのように変化したか、隣同士で相談しながら具体的な例を考えさせた。

## イ 2時間目の授業

2時間目はグループ毎に活動を行った。一つのグループの人数は5～6名とした。19世紀後半のロンドンに関する2枚の絵画資料を載せたワークシート（資料1）を配付した。資料1については、描かれている情景を丁寧に読み取らせた。資料2については、何を風刺したものかを読み取らせた。これらの活動を踏まえて、19世紀のロンドンにおける労働者の生活はどのようなものであったかについて、各自で文章にまとめさせた。

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
導入 3分	・本時の活動内容の説明を聞く。		
展開 45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に関する教師の説明を聞く。</li> <li>・グループで話し合いながら、資料をよみとき、よみといて得られた情報をワークシートに記入する。</li> <li>・よみときから得られた情報や話し合ったことを基に、19世紀のロンドンにおける労働者の生活条件が悪くなった理由について文章でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導を行い、よみときに行き詰まっているグループにヒントを与える。</li> </ul>	<p><b>【資料活用の技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1からは、労働者の生活環境が劣悪であったことを、資料2からは河川（テムズ川）の汚染が人々の健康を害していたことを読み取っている。</li> </ul> <p>〔ワークシート〕</p> <p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料をよみとくことを通して、労働者の生活状況に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。</li> </ul> <p>〔ワークシート〕</p>
まとめ 2分	・次時の学習内容の予告を聞く。	・次時の発表者を決めさせる。	

資料 1

世界史 A 「産業革命による社会の変化」

2年 組 氏名 \_\_\_\_\_

Q 1 資料 1 を見て、何が描かれているのか書きなさい。

【資料 1】

フランス人画家、ドレが描いた1870年代ロンドンの労働者住宅

Q 2 資料 2 を見て、何が描かれているのか、また何を風刺しているのか書きなさい。

【資料 2】

「パンチ」 1858年に掲載された挿絵

--

**Q3**

タイトル

---

---

---

---

---

---

**Q4**

これまでの学習を踏まえて、19世紀にイギリスの社会はどのような変化をしたのか考えて、文章でまとめよう。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

ワークシートを配布して、それぞれの資料について説明を加えた。よみとく作業が始まると、どのグループでも熱心に取り組んでいる様子が見られた。特に、資料2の風刺画については、何を風刺したものかについて、議論しているグループが多かった。あるグループでは、一人の生徒が考えを述べると、他の生徒が真剣に耳を傾けている様子が見られた。



(資料をよみとく活動の様子)

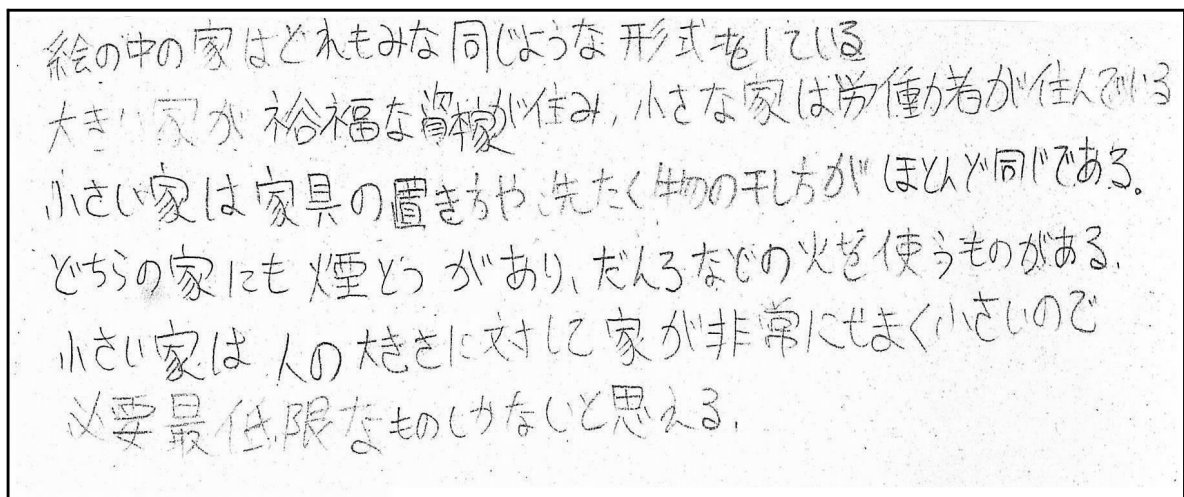
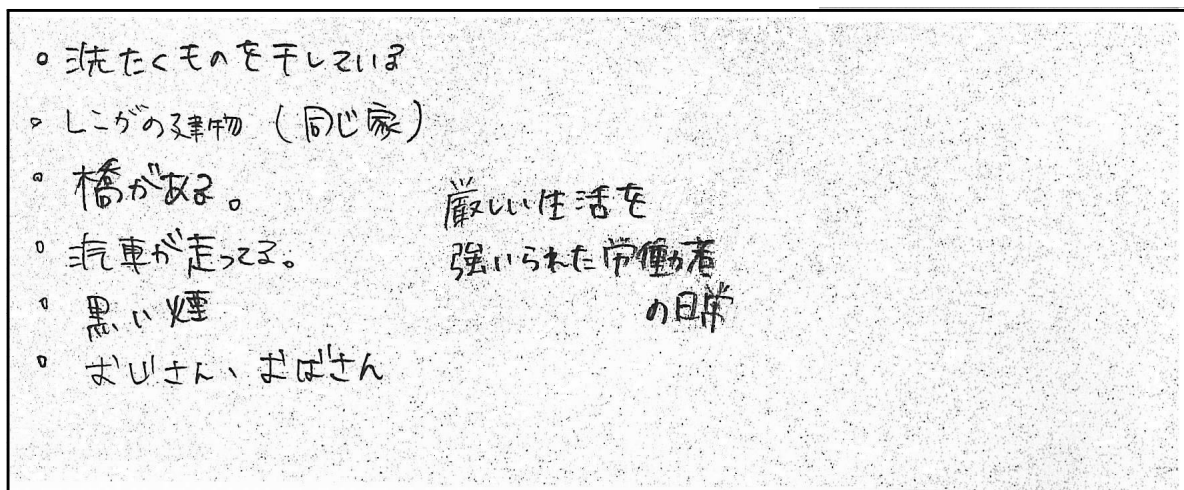


(友人の意見に耳を傾ける)



(風刺画のよみとくときで議論する)

以下は、資料1をよみとくして得られた情報を生徒が書いたものである。



これらの例に見られるように、多くの生徒が資料1をよみとくことで、当時の労働者が劣悪な住環境にあったという情報を得ることができた。さらに、労働者がこのような生活環境に置かれた背景として、資本家による低賃金労働や長時間労働などがあったことに触れた生徒も多かった。

一方、資料2の風刺画のよみとくの結果は、様々であった。机間指導の際に、活動の様子を見ると、活発な議論が行われているものの、風刺されている内容をよみとく手掛かりがつかめてい

ないようであった。そこで、資料2は19世紀のロンドンで発生していた社会問題を風刺したものであるというヒントを与えた。以下は、資料2をよみといて得られた情報を生徒が書いたものである。

右の人は飢えている、もう死にそうな状態。  
工場から——  
川が汚染して、

---

左) 人間代表  
右) おぼれ? → 環境破壊とうたえている。  
都市が見え。  
貧しく食糧をめぐらしている? 農民か?  
ハットが死んでしまった。(汚染による)「タイトル: 謝罪」  
女性は上流階級  
右は死の世界

格差社会

<p>① 資本が好人と悪い人。 水質汚染の警告の看板。</p>	<p>② 貧富の差。 水質汚染で苦しむ人達。</p>
-------------------------------------	--------------------------------

上に示した例のように、14名の生徒が河川の汚濁など環境汚染を風刺していると書いた。これとは別に、資本家などの上流階級と労働者との格差を風刺していると書いた生徒が9名であった。他の生徒は、描かれている事物を書き出すだけにとどまっておき、風刺されている内容については書かれていなかった。しかし、グループの中での議論が熱心に行われていたことから、ワークシートに十分な内容を書いていない生徒も、他の生徒の意見を聞くことで、学習の内容に関する何らかの考えを得ることができたのではないかと考えられる。

2時間目の最後に、ワークシートのQ3のタイトル欄に「19世紀の労働者の生活条件が悪くなった理由は何か」というテーマで、これまでの学習で得たことを踏まえ、各自で文章を書かせた。以下に、生徒が書いたワークシートの例をあげる。

人口の増加に環境整備が追いつかず、伝染病がはやり  
生活条件が悪くなった。収入の低さにおいて見れば、資本家  
からAは、資本家の利益が多過ぎて、労働者の収入が減る  
汚水の処理ができていない、住宅の環境がひどく悪い  
労働時間が長いのには、賃金

給料が安く、食糧・生活物資不足、住環境の整備が悪く不衛生、労働時間が長、疲労がたまる。水の問題が労働者の生活を日々悪くしていた。

- 産業革命において労働者と資本家の地位がはっきりしてきたため、労働者を低賃金でやとう資本家が多くなり、労働者の生活の質が落ちたから
- 産業革命による環境破壊のため
- 人口が急増し、住環境の整備が間に合わない

これらの例は、資料1をよみとくことで得られる情報（労働者の置かれた劣悪な住環境）と資料2をよみとくことで得られる情報（河川の汚濁などの環境汚染）の両方を踏まえて書かれたものである。また、低賃金や長時間労働など、これまでの産業革命の授業で学習した内容にも触れていることが分かる。しかし、資料1と資料2の両方を踏まえて書いた生徒は4名と少数であった。多くの生徒はどちらか一方の資料の内容のみに触れた文章を書いており、資料の内容を全く踏まえていない文書を書いた生徒も6名いた。3時間目の発表を通して、より多くの生徒が資料1と資料2の内容を踏まえて考察できるようになることが課題となった。

#### ウ 3時間目の授業

3時間目は、前時に行った資料をよみとった結果について、各グループが発表を行った。また、各自が、資料のよみときや話し合い、さらには発表から得られた情報を踏まえて、19世紀のイギリスの労働や社会の変化について考察した結果を文章で表現させた。

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
導入 3分	・本時の活動内容の説明を聞く。		
展開 45分	・資料をよみといた結果について、発表する。  ・学習した内容を踏まえて、19世紀のロンドンの労働や社会の変化について、各自の考えを文章で表現する。	・プロジェクターを使用して資料をスクリーンに映写し、それを用いて説明させる。	<b>【思考・判断・表現】</b> ・産業革命の進展による労働や社会生活の変化について、プラス面とマイナス面とを踏まえて表現できる。 〔ワークシート〕
まとめ 2分	・次時の学習内容の予告を聞く。		



2 時間目の最後に、発表の内容をノートにまとめておくように指示した。併せて、発表する内容は資料 1、資料 2 をよみといて得られた情報と、19 世紀のロンドンにおける労働者の生活条件が悪くなった理由の 2 点であることを伝えておいた。

3 時間目の授業が始まる前に、プロジェクターを準備し、資料 1 や資料 2 をスクリーンに映しておいた。発表者にはスクリーンに映された資料を用いて説明するよう指示した。



(資料を指さしながら説明する)



(各自の考えを文章で表現する)

以下は、発表された内容の中から、「19 世紀のロンドンにおける労働者の生活条件が悪くなった理由」に関するものである。

< 1 班の発表内容 >

- ・産業革命によって、イギリスの経済は発展しすぎた。国さえ発展すればよいという資本家の考えが、下の階級の労働者の生活を圧迫した。

< 2 班の発表内容 >

- ・資本家が安い賃金で労働者を働かせた。また、環境の整備も人口の増加に追い付かず、伝染病が流行ったりした。

< 3 班の発表内容 >

- ・資本家がより利益を得るため、労働者の給料を安くしたため、労働者は食べるだけで精一杯となり家賃の安い家にしか住めなくなった。
- ・人口が増加し住居や道路などの住環境の整備が間に合わなかった。

< 4 班の発表内容 >

- ・労働者の人権や環境よりも、自国の工業の発展が優先されたから。
- ・人口が急増し、住宅の状況が悪くなったから。

< 5 班の発表内容 >

- ・もらえるお金が少なく、どれだけ働いても最低限の収入しか得られない。
- ・人口の増加により環境が悪くなった。汚水が道路にあふれたり、河川が汚濁したりして、伝染病が増えた。

< 6 班の発表内容 >

- ・工業化が進み、排気ガスや汚水の垂れ流しなどが原因で、労働者の住む環境が悪くなってしまった。また、労働者も低い賃金で重労働をさせられた。

< 7 班の発表内容 >

- ・資本家の利益が大きすぎて、労働者の収入が減ってしまった。
- ・汚水の処理ができていないため、伝染病がはやり生活条件が悪くなった。

< 8 班の発表内容 >

- ・労働者は安い賃金で働かされていたので、食糧や生活物資が不足していた。また、労働時間が長く、疲労もたまっていた。
- ・居住環境も悪く、不衛生であった。

発表の内容を見ると、どのグループも資料をよみといて得られた情報と、その背景とに触れていることが分かる。また、2班、5班、6班、7班は、資料2の内容も踏まえて発表できていることも読み取れる。ただ、河川の汚濁と伝染病の増加との具体的な因果関係について理解できているかは、発表からは判断できなかった。そこで、当時の労働者の住宅街には上水道がなく、多くの労働者は汚染されたテムズ川の水を汲んで飲料水にしていたことを説明した。

発表がすべて終わってから、ワークシートの「Q4」これまでの学習を踏まえて、19世紀にイギリスの社会はどのような変化をしたのか考えて、文章でまとめよう。」を書かせた。

生徒の書いた文章の一部を紹介する。

< 生徒1 >

工業が発展し、一部の資本家など中上流階級の人々は生活が豊かになり、国全体も豊かになったように見えたが、労働者などたいはんの国民は産業革命の犠牲となり、生活の質を落としてしまうことになった。

< 生徒1 >は、文章の2行目に、「人々は生活が豊かになり、国全体も豊かになったように見えたが」と書いていることから、動力革命や交通革命による生活の変化という1時間目の学習内容も踏まえていると考えられる。しかし、後半の「たいはんの国民は産業革命の犠牲となり」というところを、産業革命による最も重大な社会の変化であるにとらえている。

< 生徒2 >

産業革命がおこって、新しいものを作ったり仕事の効率があがったりして、世の中に便利なものがたくさんあった。その中で、資本家など、裕福な人も出てくる一方で、労働者などは貧しい生活を送るなどの社会的格差も生まれてきた。

<生徒2>も、「世の中に便利なものが多くなった」という文章があることから、1時間目の学習内容を踏まえていると言える。また、後半では資本家と労働者との格差の発生について述べている。

<生徒3>

産業革命がもたらしたものは文化の発展や生活の質の向上だけではなく、国民が国民を支配し、自分の利益のために労働者を人として考えず、汚染された環境をおしつけたりと、心まで変化させてしまったと思います。

<生徒3>は、産業革命により、文化の発展や生活の質の向上があった反面「国民が国民を支配」する社会が成立したととらえている。

これらの生徒の文章に見られるように、多くの生徒が産業革命による社会の変化について、プラスの面とマイナスの面の両方を踏まえた文書を書くことができた。

#### (5) 生徒による授業評価

3時間目の終了後、アンケート用紙を配付し、後日回収した。集計の結果は以下のとおりである。なお、評価はAが「あてはまる」、Bが「どちらかというにあてはまる」、Cが「どちらかというにあてはまらない」、Dが「あてはまらない」である。

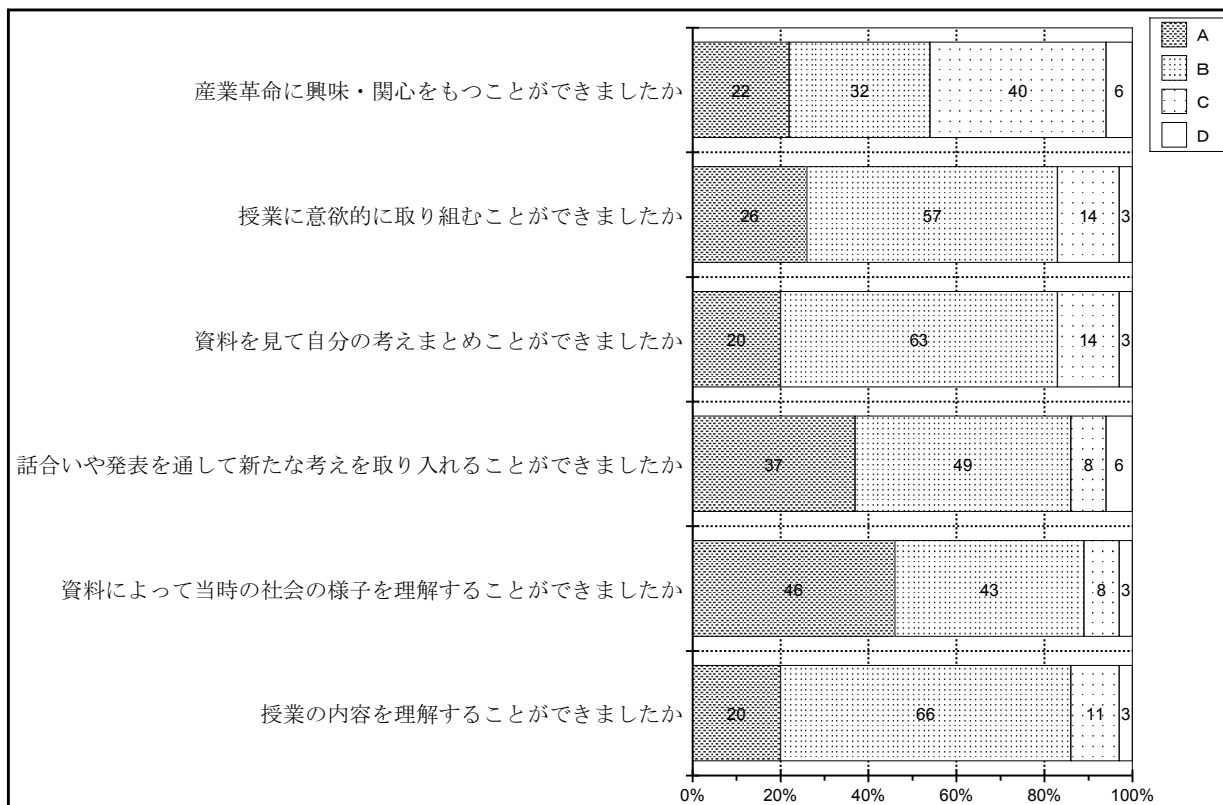
アンケートの結果(資料2)を見ると、絵画を使うことが、産業革命の時代の様子を理解させる上で効果があったことが分かる。また、話し合いや発表が、生徒の考えを多様なものにするのに有効であったことも分かる。一方、「産業革命に興味・関心をもつことができましたか」という質問に対する評価が低い。

また、自由記述の欄には次のような感想が書かれていた。

- ・グループで話し合いがよくでき、新たな意見が聞けてよかった。
- ・班になって話し合ったりすることで、自分以外の人たちの考えについても知ることができ、自分とは違う発想を知ることができておもしろかった。
- ・中学校の時より産業革命について詳しく知ることができて、前より興味をもてた。写真や図から分かることがたくさんあっておもしろかった。
- ・イギリス社会が工業化によってどのように変化したかがよくわかった。このことは、現代の様々な問題とも関係していると思った。
- ・産業革命でメリット、デメリットを知ることができた。
- ・資料から、細かいところまでみるととても深い様子を読みとれることがよくわかった。

感想を見ると、班別学習や発表など、意見を聞く機会が生徒の関心や意欲を高めたり、事象に対する多面的・多角的な見方をしたりするのに効果があったことが読み取れる。また、資料の効果についても、「写真や図から分かることがたくさんあっておもしろかった」、「とても深い様子を読みとれることがよくわかった」など、肯定的な意見が多かった。

資料2 (数字は%)



### 3 まとめ

#### (1) 成果

本事例では、19世紀後半のロンドンに関する2枚の絵画を取り上げ、それぞれをよみといて、よみといて得られた情報を基に、産業革命の進展によって発生した社会の変化を考察し、考察したことを発表したり文章で表現したりする学習活動を行った。これらの学習活動を通して、生徒が事象に対する関心や学習に対する意欲を高めたり、資料の内容や発表された内容を踏まえて考察したりすることができることを目指した。

すでにアンケートの分析のところでも述べたように、絵画資料を用いたことで生徒の関心や意欲を高めることができた。また、グループでの学習や発表によって、他人の意見を聞くことが、生徒が多面的な考察を行う上で有効であることも分かった。産業革命による社会の変化について、鉄道の開通に代表されるプラスの面と、労働者の生活の悪化というマイナスの面の両方を踏まえた文章を、多くの生徒が書くことができたのはその効果が現れた結果であると言える。

今回は2枚の絵画を使用した。ギュスターヴ・ドレの「ロンドンの貧民街」は、労働者の生活の様子が詳細に描かれており、生徒が考察を進める上で効果があった。また、テムズ川の汚濁に関する風刺画については、その内容をめぐって多くの班で活発な議論が展開されていた。風刺画は具体的な事物そのものを描いたものではないことが、生徒の想像力を刺激して活発な学習活動を促したと考えられる。

#### (2) 課題

アンケートの結果をみると、「産業革命に興味・関心をもつことができましたか」に対する評価が低い。この項目に「C」または「D」を付けた生徒の記述内容を見ると、低い評価をした理由として以下のようなものがあげられている。

- ・資料の図を見て他の人の意見を聞くことができ、納得した部分もあったけれど、そこからのまとめ方がよくわからなかった。
- ・板書が少なかったから。

これらの理由に共通することは、いわゆる講義形式の授業への慣れから来る不安であると言える。資料から読み取った情報や、話合いや発表から得られた情報を、各自でワークシートに記録したり、学習内容を各自で文章にまとめたりするといった活動に対して、自分の記録や文章が学習内容の要点を抑えているのかどうかという不安が発生しているのではないだろうか。

**事例2**の「(2)課題」でも触れたが、さらに4時間目を設定して、生徒が書いた文章を紹介し、それに対して教師が学習内容の要点を踏まえたコメントをするなどの工夫が必要であろう。